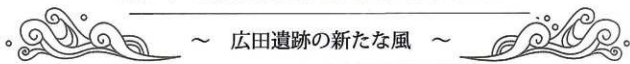


平成 20 年 埋蔵文化財保存活用整備事業に伴う南種子町の取り組み



～ 広田遺跡の新たな風 ～

2009 年 3 月
南種子町教育委員会

序 文

広田遺跡は、種子島南部の東岸、太平洋に面した全長約100mの海岸砂丘の中に営まれた弥生時代から古墳時代にかけての埋葬跡です。この遺跡は昭和30年に地元の人により発見され、昭和32～34年にかけて盛岡尚孝、国分直一氏らにより発掘調査がなされました。その際の出土品は、平成18年6月9日付で国の重要文化財に指定されています。南種子町教育委員会では、貴重な遺跡である広田遺跡の保護と活用を図るため、平成17、18年度にかけて確認調査を実施し、その結果、発見されることなく今も眠る広田人の墓が、まだ多く残されていることがわかりました。こうした成果により、広田遺跡は平成20年3月28日、国史跡に指定されました。

広田遺跡の国史跡指定を契機に、地元の方々に南種子町の豊富で貴重な埋蔵文化財を知ってもらいたいとの思いから、平成20年度は、広田遺跡を中心とした埋蔵文化財の普及啓発に力を入れてきました。3月～5月にかけて広田遺跡企画展、9月21日に国史跡指定を記念して広田遺跡シンポジウムを開催し、多くの皆さまにご来場いただきました。中でも、シンポジウムは「町民みんなで作るシンポジウム」をコンセプトに、小学校、中学校、高校生や連合青年団など、多くの皆さまに参加いただきました。発表へ向けてのこうした取り組みを通して、遺跡の保存・活用には地元の方々のご理解とご協力、そして町民一人ひとりが主体的にこうした活動に取り組んでいくことが、何より大切であるということ強く実感いたしました。

本冊子は、平成20年度に南種子町が実施した埋蔵文化財の普及啓発活動をまとめたものです。文化財ポスターの公募や町民参加型シンポジウムなどは、南種子町では初めての試みでもあったため、今後の埋蔵文化財の普及啓発に向けての資料としてまとめることといたしました。近年の埋蔵文化財行政においては、活用・普及啓発の重要性が見直されつつあります。今回、本町で実施した取り組みが、今後の埋蔵文化財普及啓発活動の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、シンポジウムの開催にあたりご指導・ご協力をいただきました文化庁、県文化財課の方々、シンポジウムでのパネルディスカッションへの出席をご快諾くださいました諸先生方、普及啓発活動でご指導・ご協力くださいました地元の皆さまをはじめとする関係各位に対しまして心よりお礼申し上げます。

平成21年3月

南種子町教育委員会
教育長 岩屋 秀男

INDEX

第1章 事業の経過	1
第1節 南種子町の概要	1
第2節 これまでの経過	2
第3節 広田遺跡の概要	3
第2章 事業の内容	6
第1節 事業の内容	6
第2節 広田遺跡シンポジウム	8
1 平山小学校	
2 南種子中学校	
3 南種子高等学校	
4 南種子町連合青年団	
5 その他の協力者	
第3節 文化財ポスター	25
第4節 事業の成果	26
第3章 写真	27

第1章 事業の経過

第1節 南種子町の概要

種子島は鹿児島県最南端の佐多岬から南東約40kmの洋上に位置する、最高海拔282.3mの低平な島です。種子島の南西には世界遺産、屋久島を望むことができます。

種子島の南部に位置する南種子町は、面積110.21 km²、人口6,565人[※]で、一昨年には町制施行50周年を迎えました。

種子島は鉄砲伝来の地として有名ですが、ポルトガル人を乗せた中国船が漂着した門倉岬は南種子町の南端部の岬です。

また、南種子町にはロケットの発射場があり、年数回、実用衛星を乗せたロケットの打上げが行われています。

※2008年12月現在の人口です。



図1 広田遺跡の位置

第2節 これまでの経過

広田遺跡が発見以来、さまざまな調査や企画展を行ってきました。今回、調査と普及啓発、それぞれの経緯をまとめてみました。

1 広田遺跡発掘調査の経緯

<広田遺跡の発見>

- 1955年(昭和30年)・・・大型台風の影響後、地元の青年らが発見
- 1957-1959年(昭和32-34年)・・・盛岡尚孝氏や国分直一氏らが確認調査
- 2003年(平成15年)・・・昭和32～34年の広田遺跡発掘調査報告書刊行
(編集：広田遺跡学術調査研究会
発行：鹿児島県歴史資料センター黎明館)



<広田遺跡 新たな調査へ>

- 2003-2004年(平成15-16年)・・・広田遺跡周辺の分布調査及び確認調査
- 2005-2006年(平成17-18年)・・・範囲確認調査
→遺跡の範囲と未調査の墓が残存することが明らかに
- 2007年(平成19年)・・・平成17～18年の広田遺跡調査及び周辺調査の報告書刊行

2 広田遺跡普及啓発の経緯

- 2003年(平成15年)・・・広田遺跡企画展
期間：平成15年10月29日～11月3日 入場者総数：945人
後援：鹿児島県立歴史資料センター黎明館
昭和32～34年発掘調査の広田遺跡出土品の企画展を開催
○記念講演 10月28日 入場者数220人
盛岡尚孝, 脇岡隆夫氏(黎明館)の講演会と遺物説明会を開催
※ 企画展期間中はアンギン編み、勾玉づくりの体験学習も実施



- <2006年(平成18年)6月9日 昭和32～34年発掘調査の広田遺跡出土品 国の重要文化財に指定>
- 2006年(平成18年)・・・町ふるさと祭展示部門で平成17～18年調査の広田遺跡出土品を展示
期間：平成18年11月2日～11月3日

<2008年(平成20年)3月28日 広田遺跡国史跡に指定>

- 2008年(平成20年)・・・◎広田遺跡国史跡指定記念企画展
平成17～18年発掘調査出土品の展示
平成20年3月22日～5月11日 入館者総数287人
◎郷土館講座(特別講座)
「広田人の謎 ～人類学が迫る種子島のルーツ～」
平成20年3月8日
形質人類学者の先生方をパネリストに開催
◎広田遺跡国史跡記念シンポジウム
平成20年9月21日 入場者総数393人
●文化庁主催の「発見された日本列島2008展」に出品
平成17～18年発掘調査の広田遺跡出土品を出品
現在、全国の博物館を巡回中



第3節 広田遺跡の概要（広田遺跡記念シンポジウム冊子より抜粋）

はじめに

広田遺跡は出土品が国の重要文化財（平成18年6月9日付）、遺跡が国史跡（平成20年3月28日付）に指定されています。このように二つの国指定を受けた遺跡は、鹿児島県では霧島市上野原遺跡に次いで2例目です。南種子町のかけがえない貴重な広田遺跡について紹介いたします。

1 広田遺跡の位置

広田遺跡は南種子町平山広田にあります。東海岸に面した長さ約100メートルの砂丘に立地し、砂丘北側を広田川が東流し海へと注いでいます。広田周辺は標高20メートル前後の丘陵が発達しており、丘陵間の低地部に沿って広田川が流れ、集落や水田が広がっています。



写真1 昭和30年代の発掘調査時の広田海岸

2 広田遺跡発見の経緯

1955年（昭和30）年、大型台風22号による高波で広田の砂丘が一部崩落し、人骨や貝製品、土器などが海岸に散乱しました。それを広田集落の斎藤貞夫さん、長田茂さん、坂口喜成さんが発見し、中種子町の西病院を通して当時、野間中学校教諭であった盛岡尚孝先生が確認したことから遺跡の発見へとつながっていきました。

広田遺跡の発掘調査は、国分直一先生、金岡丈夫先生、盛岡尚孝先生らを中心に、1957-1959年（昭和32-34年）の3年間行われました。発掘調査には、青年団をはじめ地元の方々が多く参加しています。



写真2 昭和30年代の発掘風景

さらに、2005年（平成17年）3月、大雨により広田の砂丘北端部が崩落し、貝輪を装着した状態の人骨が露出しているのを西之表市在住の考古学者鮫高安哉さんが発見し、南種子町教育委員会に連絡しました。これまで、砂丘北側では当時の人々の食べカス（獣骨や魚骨、貝殻など）の存在は確認していましたが、墓域ではないと考えられてきました。しかし、今回貝製品を伴う人骨が発見されたことで、砂丘の北側にも墓域が広がる可能性が生じました。



写真3 平成の発掘風景

砂丘北側は広田川に面しており、川の増水時には崩壊する危険性がありました。こうしたことから、2005-2006年（平成17-18年）、南種子町教

育委員会は保護を目的に遺跡の範囲確認のための発掘調査を実施しました。調査の結果、従来墓域と考えられていた南側の墓域が西側に拡大すること、砂丘北側に新たな墓域が存在することが明らかとなりました。さらに、電磁波で地中の埋蔵物を調べることができる地中レーダー探査を併せて行っており、墓の可能性を示す反応を確認しています。こうしたことから、広田の砂丘にはまだ未調査の墓が残存すると考えられます。



写真4 地中レーダー探査による調査

こうした調査成果から、広田遺跡は日本文化の多様性を知る上で重要な遺跡であると考えられ、平成20年3月28日国史跡に指定されました。

3 広田遺跡ってどんな遺跡？

1) 時期について

広田遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代にあたる、およそ1,700年～1,300年前に作られた集団墓地の遺跡です。90基以上の墓と157体の人骨が発見され、埋葬に伴う貝製品やガラス玉、土器などが44,000点以上出土しました。D地区2号人骨のように10,000点以上の貝製品を伴い埋葬されていた例もあり、このようにたくさん精巧な貝製品を伴う遺跡はほかにありません。

広田遺跡は約400年間墓域として営まれましたが、大きく三時期に分けられます。

- ・下層期・古段階（弥生時代後期後半～古墳時代前期）
- ・下層期・新段階（古墳時代前期～中期）
- ・上層期（古墳時代後期）

2) 広田遺跡の出土品について

広田遺跡に埋葬されていた人々は、装飾された美しい貝のアクセサリーを伴い埋葬されていました。こうした貝製品の中には、種子島より南の沖縄や奄美近海で採集される大型巻貝を使用しているものも多く、当時南島地域と交流していたことを示しています。

広田遺跡の貝製品は、日本でほかに例がないといえるくらい精巧なものが多く、当時の製作技術の高さをうかがわせます。ここで代表的な貝製品を紹介します。

「山の字」貝符は、1958年（昭和33年）の第二次調査で発見され、当時は日本最古の文字の発見と大きく新聞でも報じられ、話題となりました。以後、山の字説と文様説との間で様々な論争が繰り返されましたが、現在も決着がついていません。

広田遺跡からは、墓に伴い土器も出土しています。北側墓域の北区2号墓からは、種子島で作られたと考えられる在地の甄形土器と壺形土器と一緒に出土しました。土器は遺跡の年代を考える上で重要な遺物です。北区2号墓では壺形土器（中津野式土器といえます）が出土していることから、弥生時代終末期に作られたことがわかりました。さらにこの甄形土器は本土からの搬入品と考えられ、本土と交流していたことを示しています。

このように、広田遺跡の出土品は南島地域から本土にかけての交易を考えるうえで非常に重要だと考えられ、平成18年6月9日、昭和32～34年発掘調査出土品は、国の重要文化財に指定されました。



写真5 北区2号墓から出土した土器

4 広田遺跡の今後の整備・活用について

広田遺跡は、海と川にはさまれた砂丘に立地しているため自然災害の危険性が高く、遺跡が壊れることがないように整備していく必要があります。南種子町では今年3月、遺跡を保護するために広田川に面した砂丘北側に護岸を建設しました。今後も専門家の先生方に指導いただきながら保護していく予定です。

国史跡広田遺跡は、南種子町にとってかけがえない貴重な遺跡として保護していくことはもちろんですが、種子島のルーツを探るための貴重

な研究資料であり、観光資源ともなりえます。遺跡の活用についても専門家の先生方に指導いただくとともに地元の方々の意見・協力をいただきながら充実させていきたいと考えています。



写真8 2005年9月 台風により崩落した砂丘の復旧作業



オオツツノハ貝輪

オオツツノハ貝で作られた貝輪。この貝は、種子島に多いことから、地元で採集した貝だと考えられています。

ゴホウラ貝輪

ゴホウラ貝で作られた貝輪。この貝は種子島では採集が難しいため、奄美・沖縄地域と交易をして手にいれたと考えられています。

イモガイ玉

イモガイの殻の内側を磨いてつくった装身具(アタセサリー)です。このイモガイ玉は、南区2号人骨の目のまわりに集中して出土したので、ネックレスとして使われたことがわかりました。

ヤクougai製容器

種子島産のヤクougaiの素材として有名なヤクougaiで作られた容器。この貝も、種子島では採集が困難なため、交易で手に入れたとされています。

有孔円盤状貝製品

イモガイの殻の内側からつくられた貝製品。孔が穿たれているので、装身具であることがわかります。

上層貝符

上層から出土したこれらの多くは孔が穿たれてなく、再葬された人骨の周りに集中して埋まっていた。このため、上層タイプの貝符のうち、孔のないものは、装身具ではなく、副葬品であると考えられています。

竜頭型貝製装飾

この貝製品は、これまで広田遺跡でしか発見されていない独特の貝製品で、装身具としてつかわれたもので。

下層貝符

イモガイを板状に削り、淨き彫りで独特の文様を施したもので、貝製の遺符のように見えるので、貝符と呼ばれています。下層貝符には孔が穿たれているため、ペンダントのような装身具として使われたことがわかります。

太形ツノガイ玉

この太形ツノガイ玉は、南区2号人骨の目のまわりから出土したもので、イモガイ玉のネックレスの中に、組み合わせて使われていました。

ガラス小玉

このガラス玉は、1〜2歳ほどの乳幼児の目のまわりから出土しました。

マクラガイ玉

このマクラガイ玉は、南区2号人骨の目のまわりから出土したもので、遺珠にしてネックレスとして使われたことがわかっています。



写真7 「山ノ字」貝符

写真6 2005-2006年 広田遺跡出土の貝製品

第1節 事業の内容

平成20年度に実施した埋蔵文化財普及啓発事業は、下記に記した「国史跡指定記念 広田遺跡シンポジウム 広田遺跡の謎に迫る。(以下、広田遺跡シンポジウム)」をメインイベントに据え、シンポジウムに参加する団体がそれぞれの発表に向けての学習活動(サブイベント)を展開しました。各サブイベントは発表する団体が主体となり計画・実施しました。

(広田遺跡記念シンポジウム冊子より抜粋)

国史跡指定記念 広田遺跡シンポジウム
広田遺跡の謎に迫る。

日時 平成20年9月21日(日) 14:00～17:00

会場 鹿児島県熊毛郡南種子町 南種子町福祉センター

日程 オープニング

14:00～14:10 郷土芸能「ちくてん」 平山小学校児童
開会あいさつ

14:10～14:13 南種子町長 名越 修

第一部

14:13～14:33 広田遺跡の紹介 南種子中学校生徒

14:33～14:38 今後の広田遺跡の活用・史跡整備について 南種子町教育委員会

14:40～15:20 基調講演「奥からみた広田遺跡」 熊本大学教授 木下 尚子
休 憩

15:20～15:25

第二部

15:25～15:45 広田人のファッションショー 南種子高等学校

15:45～15:50 表彰

第三部

15:50～17:00 パネルディスカッション

司 会：堂込 秀人(鹿児島県文化財課埋蔵文化財係長)

パネリスト：木下 尚子(熊本大学教授 考古学)

高瀬 要一(奈良文化財研究所客員研究員 史跡整備)

宇多 高明((財)土木研究センター 海岸工学)

竹中 正巳(鹿児島女子短期大学准教授 形質人類学)

中村 直子(鹿児島大学准教授 考古学)


榎重田 佳男(文化庁文化財調査官 考古学)

徳田 有希乃(南種子町教育委員会)

石堂 和博(南種子町教育委員会)

閉会のあいさつ

南種子町教育委員会 教育長 岩屋 秀男

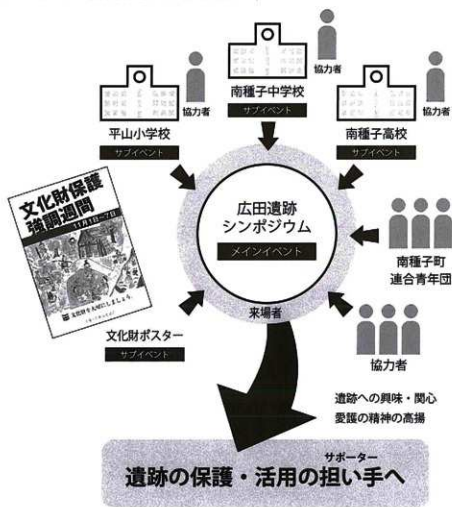


1 事業の趣旨

広田遺跡は昭和32～34年発掘調査の出土品が平成18年に国の重要文化財に、平成20年には遺跡が国史跡に指定されました。これを契機に、埋蔵文化財に関する興味・関心が高まりつつあることから、広田遺跡シンポジウムを開催しました。

「町民みんなで作るシンポジウム」を合言葉に参加型のシンポジウムを開催することで、より多

くの町民に広田遺跡さらには町内の埋蔵文化財全般に理解を深め、今後の遺跡保護・活用の担い手(サポーター)へとつなげていくことを目的としています。特に、これからの南種子町の担い手である児童・生徒に発表者として参加してもらうことで、本町の埋蔵文化財への興味・関心を高め、愛護の精神を育成することをねらいとし、町内の小・中・高校から発表者を募りました。



2 事業に伴う出演団体への働きかけ

町内発表者の小・中・高校には、次年度のカリキュラムを組む時期である、2月に出演の依頼を行いました。出演内容の協議・調整の話し合いを重ね、最終的には4月から学習に取り組むことになりました。

また、基調講演を広田遺跡発掘調査検討委員会

の委員長であった木下尚子熊本大学教授に依頼し、パネルディスカッションには、パネリストとして広田遺跡発掘調査検討委員会の先生方に出演を依頼しました。

さらに、今回はより多くの児童・生徒に参加を呼びかけることを目的に、文化財保護強調週間に合わせて「広田遺跡」をテーマにした文化財ポスターの公募を行いました。

1. 南種子町立平山小学校

(広田遺跡記念シンポジウム冊子より抜粋)

平山小学校では、小学校・校区合同秋季大運動会において校区内の四集落に伝わる郷土芸能を踊っており、昨年からは、広田遺跡のある広田集落に伝わる「ちくてん」を披露しています。

「ちくてん」の由来については、様々な説がありますが、一説によると次のようなことが言い伝えられています。

今から160年～170年昔、広田沖で琉球王国の船が難破しました。広田集落の人々は、異国の人を看護・救済し、船を修理するため現在の広田港沿の阿武勤川上流へと運びました。乗組員の中に一人だけ朝鮮国の人がいて通訳をしてくれたので、船を係留し修理をしたと言われる場所を今でも朝鮮淵とよんでいます。

さて、その頃の広田集落では“岩穴”（岩肌）に横穴を掘り、その中で火をたき穴全体を温めた

後、岩の中に入り、入口にふたをして体を温めるという寒い日の憩いの場・・・現在のサウナに似ている）を造っていました。岩穴の完成の祝賀の席に乗組員たちも招待され、宴は盛り上がりました。その際、乗組員たちが感謝の気持ちを込めて踊ったと伝えられているのが「ちくてん」です。その踊りを見た広田の人々は大変気に入って、踊りを教えてもらいました。しかし、歌については、言葉が違うので、耳で聞いたままを日本語に置き換え歌ったことから、単語としてはわかるものの、前後を考えあわせても意味が通じないままに歌い継がれています。

今回、広田集落の有志の方々のご指導を受けながら、今日まで練習してきました。まだまだ不十分な所もありますが、一生懸命踊りますので、どうぞご覧下さい。



体育館での練習風景



平山小・校区合同秋季大運動会

発表題目 舞台部門：ちくてん（広田集落の郷土芸能）
平山小学校全校児童 20名、広田集落有志 9名
発表題目 展示部門：広田遺跡についての研究発表
平山小学校児童 16名（3学年～6学年全生徒）

南種子町立平山小学校（以下、平山小学校）は、広田遺跡のある平山地区唯一の小学校です。平成20年度は、平山小・校区合同秋季大運動会、広田遺跡シンポジウムで発表するための郷土芸能「ちくてん」と、総合的な学習の時間で1年間「広田遺跡」をテーマにした郷土学習を計画しました。

1 「ちくてん」学習の内容

「ちくてん」は、平成19年にも校区合同秋季大運動会で披露しており、大半は経験者でした。練習は、夏休み中旬から広田集落の有志の方々やPTAに協力いただき開始しました。広田集落有志の方々細かい動作まで丁寧に指導いただいたため、初経験である1年生も踊りを習得することができました。また、授業時間を調整し合同で練習したため、全校児童及び全教職員で練習することができました。

2 「体験！広田人（郷土教育）」

総合的な学習の時間（3学年～6学年合同学習）
：全50時間

＜活動の目標＞

- ・南種子町の遺跡と古代人の生活に興味・関心を

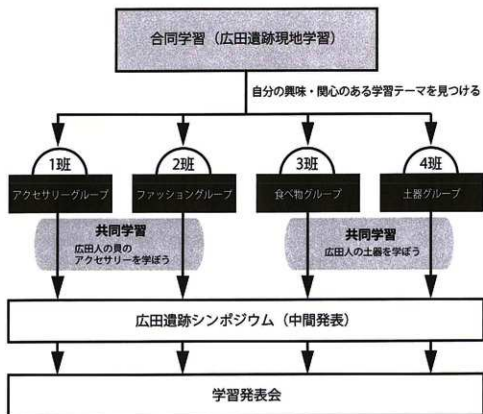
持ち、自ら学習のテーマを見つけ学習する

- ・これまでの学習を生かし、自分なりの表現方法でまとめる
- ・学習の中で新たな課題を見つけ、郷土の遺産を大切にしていける精神を育てる

＜学習の内容＞

学習の導入として、広田遺跡の概要について現地で学習しました。その後、児童が学習の中で疑問に思ったこと・興味をもったことをまとめ、4グループに分かれてそれぞれのテーマの学習計画を作成し、学習を進めました。他のグループと共通する内容は、共同学習を行いました。

広田遺跡の説明や出土品の解説などは南種子町教育委員会（以下、町教委）が行い、土器づくりは地元南種子町で窯元をされている林英香先生に指導していただきました。



「広田人の貝かざりをつくってかざろう」
～広田人の貝アクセサリー展示会～

＜児童の関心点＞

- ・どのように貝のアクセサリーを作っていたの
ろう、身につけてみたい→実際に作ってみよう！

＜活動内容＞

1. 広田人の貝のアクセサリーを調べよう（どんな種類があるのか、どんな貝を使っていたのか）
2. 貝符を作ってみよう（実際にイモガイに彫刻をしてみよう）
3. 広田人の貝のアクセサリー、貝輪を作ってみよう

＜学習のまとめ＞

- ・貝符の文様や製品に使う貝の種類が時代により違うことが分かった

＜感想＞

- ・貝符作りは貝がかたくて難しかった。あんなに細くてきれいな彫刻ができる広田人は器用だと思った。今度作る時は広田人の深く細くほる技術をまねしてみたい。
- ・貝輪に石で穴をあけると、ひびが入って割れてしまった。アクセサリー作りでも穴がなかなか開かなかったが、真ん中に穴をあけるとあきやすいことが分かった。広田人はすごい技術を持っていてびっくりした。



「広田人のファッションショーを開こう」
～広田人の服について～

＜児童の関心点＞

- ・広田遺跡の人骨がきれいな貝飾りをしていたのでびっくりした。アクセサリーがきれいだったので服もきれいなものを着ていたのではないかと思った → 調べて作ってみよう！

＜活動内容＞

1. 広田人の服を調べよう（どんな布を使っていたのか、どんな形だったのか）
→広田遺跡から服は出ていないので町教委にインタビューしたり、本やインターネットで調べてみよう
2. コースターを作ってみよう（アンギン織りをしてみよう）
3. 広田人の服を作ってみよう

＜学習のまとめ＞

- ・当時の人の服装は、男の人は狩りなど仕事しやすい服装、女の人は家事しやすい服装をしている。
- ・アンギンに使うおもりの石は、丸い石だとすべて糸がほどけてしまうので、ごつごつした石が使いやすいということが分かった。しかし、ちょうどいい大きさの石がなかなか見つからなかった。
- ・広田人の服は石で切って作ったが、すごく大変だった。特に首の部分は先ののとがった石で穴をあけたが、すごく力がいり難しかった。広田人は器用で力が強いと思った。

＜感想＞

- ・材料集めはとても時間がかかって大変だったけど、みんなで協力して力を合わせたら最後までできたのでうれしかった。
- ・アンギンを材料から組み立てるのがとても大変だった。ひもできつくしぼってもすぐほどけてしまったり、せっかく組み立てても崩れてしまったりした。織る時も順番を間違えたりして完成しなかった。
- ・最初は簡単だろうと思っていたが、とても大変だった。でも実際アンギンで織っていると広田人に戻った気がした。

「広田人の食べ物を作って食べよう」
～広田人レストラン開店～

＜児童の関心点＞

- ・広田人は平均身長が低く、赤ちゃんの墓があるらしい→どんなものを食べていたのか調べてみよう！

＜活動内容＞

1. 広田人の食べていた食材とその調理法を調べよう → 広田集落の人にインタビュー！
2. 広田人の土器を調べ、作ってみよう（土器に何をまぜていたのか調べてみよう）
3. 作った土器で調理してみよう
→ 塩でじゃがいもを煮てみよう！

＜学習のまとめ＞

- ・広田人の食べていたものには、今は食べないものがあった。広田人の食べていた具には広田での呼び方（種子島の方言名のこと）があったことが分かった。
- ※ 南種子町漁業協同組合広田浦組合員の方々にインタビュー
- ・広田人の使っていた土器は、甕形土器が調理用、甕形土器が保存用であることが分かった。

＜感想＞

- ・今度は色々な種類の土器で調理を試したい。米をたいたり油で揚げたり塩づくりもしてみたい。
- ・土器作りは大変だったけど、作った土器がすごく丈夫だったのでびっくりした。
- ・広田人の食べものには、今では食べないものがあるとおどろいた。この学習で広田人に近づけた気がする。



「広田人が生活に使う道具を作って使おう」
～土器博士になろう～

＜児童の関心点＞

- ・広田人の土器の色や形が面白かったので調べてみようと思った。 → 実際に作ってみよう！
- ・土器の中にきらきらしたもの（金雲母）があって、きれいだったので調べてみることにした。

＜活動内容＞

1. 広田人の土器を調べよう（どんな形があるのか、どんな色をしているのか、質はどうか）
2. 土器を作ってみよう（粘土にいろいろ混ぜて広田人の粘土になるか試してみよう）
→ ①家の前の砂 ②広田海岸の近くの砂
③広田海岸の砂 ④浜田の港の砂
⑤浜田海岸の砂 ⑥恵美之湯の途中の土
⑦長田商店の前の上 ⑧中種子町で林先生が見つけた土 ⑨くいだいた貝殻
3. 金雲母について調べ、金雲母を混ぜた土器を作ってみよう→花こう岩から取った金雲母を混ぜてみよう

＜学習のまとめ＞

- ・広田海岸の砂が一番広田人の土器に似ていた。
- ・土器を作る時に、ぬらしすぎて水が蒸発してしまい焼いたら割れてしまった。
- ・金雲母の入った粘土は種子島にはなく、屋久島にあるらしい。

＜感想＞

- ・金雲母をどうやって手に入れたのか、なぜ金雲母を混ぜた土器を作ったのか不思議に思った。
- ・土器づくりの時の粘土こねはすごく大変だった。花こう岩を破片にするのも大変だった。火を起こすのも大変だし、広田人は器用で力もちだったと思う。また、いい焼き物を焼ける粘土の場所などのたくさんの知識やきれいな土器をつくるセンスの良さを持っていたと思う。
- ・今度は広田人の土器に形や文様を似せて作り、使ってみたい。また、種子島で金雲母を探したい。
- ・広田人と同じ方法で土器を作っていると思うとわくわくした。

2. 南種子町立南種子中学校

(広田道跡記念シンポジウム南種子より抜粋)

3年生選択社会と2年生選択美術のメンバーで取り組みました。

調べ学習を進めていくと、私たちは広田道跡について「知っているようで知らない」ことが多くあることがわかりました。私たちが住んでいる町内に、このような素晴らしい道跡があることに改めて驚き、もっと知りたい・もっと知って欲しいと思うようになりました。

私たちは、広田道跡の概要や、広田人骨の特徴、広田人はいつ消えたのか、広田道跡の文様文化について調べました。また、実際に多数出土している貝製品の文様をよみがえらせようと、同じ貝を用いて、実際に彫る作業もやってみました。実際にやってみると、とても難しく、広田人の技術や思いには何か深いものがあるのではないかと思います。

日本の歴史の中で、どこの道跡にも見られない風習があるなど、広田道跡はとてもおもしろい道跡です。私たちの先祖の可能性もある広田人のことをさらに解明していきたいと思っています。

1 広田道跡の概要

2 広田人骨の特徴

3 広田の文様文化

4 広田人はいつ消えたのか



発表題目：広田道跡の紹介

南種子中学校生徒 10名

(3年生選択社会4名 2年生選択美術6名)

選択の時間 (2, 3学年合同学習) 全16時間

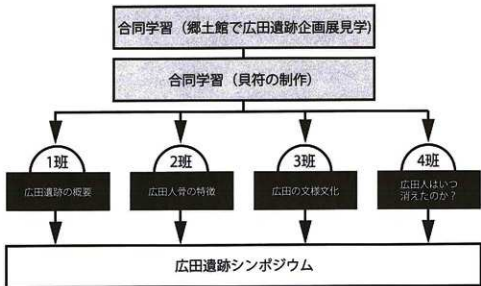
南種子町立南種子中学校 (以下、南種子中学校) は、南種子町唯一の中学校です。今回のシンポジウムでは、広田道跡の概要を、生徒の視点からわかりやすく紹介するための学習を計画しました。

1 活動の目標

- ・ 広田遺跡に興味・関心を持ち、自ら学習のテーマを見つけ、調べまとめる。
- ・ 調べた事柄をわかりやすく整理し、パワーポイントで編集する。
- ・ 驚いて調べたいと思ったことや発見する喜びといった、伝えたいことを適正に説明できるようにする。

2 学習の内容

学習活動の導入として南種子町郷土館（以下、郷土館）の広田遺跡企画展で遺跡の概要を学習しました。その後、4つのテーマについての概要を町教委が解説し、生徒がテーマごとに4班に分かれて学習計画を作成し、学習を進めました。必要に応じてインターネットや日本書紀などの資料も使いました。また、貝符の制作を合同で行いました。



●「世にも不思議な貝製品たちをよみがえらせてみよう！（貝符の制作）」

1. これまでの学習を振り返って・・・各班ごとに学習内容の中間発表をする。
2. 広田人の装飾・貝符の文様について考えてみよう・・・本物の貝符にふれよう！
3. 貝符づくり・・・貝符の文様を自分でデザインして彫ってみよう！（イモガイに篆刻刀で彫刻）

＜広田遺跡学習をしておの感想＞

- ・ 広田遺跡は疑問点や謎が多く、グループで論じ合うのがとても楽しかった。なぜ貝符の文様があんなに複雑だったのか、広田人はどのように交流していたのか、広田人はいつ姿を消したのか、少しでも謎が解き明かされるようこれからも学習していきたい。

- ・ 私は広田出身なので広田遺跡について以前から興味があった。広田の魅力は、その歴史の深さと謎の多さで、なぜ浜に亡骸を埋めたのか、装飾品はどのように伝わってきたのか、いまだ解けない様々な謎の一角でも自分が解くことができたらと思い、少しでも広田人の謎が解けるよう努力したい。

- ・ 貝符づくりは、貝がとても固く篆刻刀の刃がなかなか進まなかった。文化庁の先生の話では、縄文時代のヒスイの加工は6時間で1cmくらいしか穴が開けられなかったそうだ。でも、何度か削ると徐々に滑りがよくなり、楽しくなってきた。広田人は、貝符を自分たちで作ろうと思ったのはすごいと思う。今回は限られた時間だったから完成しなかったけど、広田人は貝符づくりを何日も何時間もかけて作ったのだと実感した。だからこそ、貝符を作らなければならなかった理由、作ろうとした理由を知りたいと思う。

3. 鹿児島県立南種子高等学校

(広田道跡記念シンポジウム熊子より抜粋)

私たちの高校は普通科高校です。そのため、被服の実習経験が浅く、自分たちの力でファッションショーを行うことが出来るのか、とても不安でした。服のデザイン、アクセサリー作り、ファッションショーの企画・構成…すべてが初めての経験でした。でも、町の教育委員会の方や洋服の先生方にご指導をいただいたので、何とか準備を整えることができました。

また、今回のシンポジウムに参加することがきっかけとなり、広田道跡を中心とした地元の歴史や文化をより深く学びましたし、エコバッグを製作する過程で、リサイクルやゴミ問題について考えたり、有意義な時間を過ごすことができました。

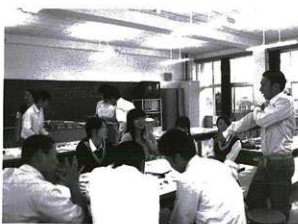
今日は、私たちが試行錯誤しながら学んだことを十分に表現したいと考えています。来場された皆さんにも私たち高校生の視点を楽しんでいただけたら幸いです。



広田道跡歴史指定記念企画展見学(4/16)



アクセサリー製作班…今や広田人の気持も!



衣装製作班…デザインを持ち寄り、検討中。



プロデュース班…ショーの構成を担当します。

1 製作過程の紹介ビデオ

2 広田ファッションショー

発表題目：広田人のファッションショー
南種子高校生徒 21名
(2学年広田道跡シンポジウムコース)
総合的な学習の時間 10時間
※個人や小グループで放課後も活動した。

鹿児島県立南種子高等学校(以下、南種子高校)は、南種子町唯一の高校ですが、高校再編により平成21年度末には閉校になります。南種子町の最後の高校生としてシンポジウムに参加しました。今回のシンポジウムでは、以下のようなコンセプトで学習を計画し、製作していきました。

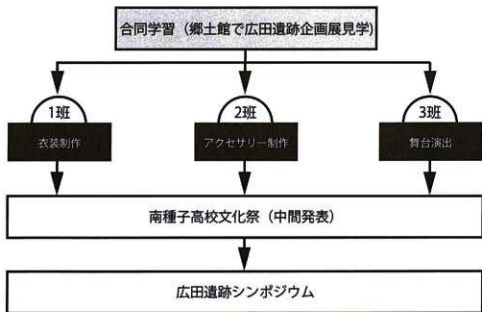
1 ファッションショーのコンセプト

- ・メインテーマ：『ビーチリゾートファッション』
広田遺跡は海に關係の深い遺跡なので、夏の海をイメージ。
- ・「現代の広田人」をイメージして、現代のファッションを広田人風にアレンジする。
- ・広田遺跡特有の貝符や竜佩型貝製垂飾などの貝製品をモチーフに衣装をデザインする。
- ・広田人の特徴は貝のアクセサリーであるので、コーディネートに取り入れる。
- ・広田遺跡Tシャツを考案し、広田遺跡を全国に発信するとともに、町おこしのへの活用を提案したい。

- ・エコを取り入れる。広田遺跡をモチーフにしたエコバックを作成し、環境問題への取組みを提案する。

2 学習の内容

学習の導入として、郷土館の広田遺跡企画展で広田遺跡の概要を学び、実際の貝製品を観察しました。その後、広田遺跡の貝製品について町教委が解説し、他校のファッションショーのビデオ観賞をするなどしてファッションショーのイメージをつかみました。活動は衣装制作班、アクセサリー制作班、舞台演出班の3つに分かれ、それぞれで制作活動を行いました。

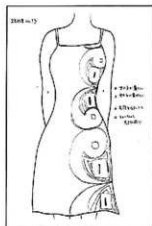


● 衣装制作班

1. それぞれで広田遺跡をイメージした衣装を考案する。
 2. 持ち寄ったイメージ図をもとに制作衣装を決定する。
 3. 制作担当を決め、各自製作する。
- ※ 制作にあたっては、服飾関係に勤めていた渡邊久美子先生に指導していただきました。

● アクセサリー制作班

1. それぞれで広田遺跡をイメージしたアクセサリーを考案する。
 2. 海岸で貝を拾い材料を集める。
 3. 持ち寄った材料をもとに、アクセサリーを制作する。
- ※ 広田遺跡で実際に使われていた貝や貝符・竜佩形貝製垂飾の形を粘土で作ったもの等を用いるなど、広田遺跡の貝のアクセサリーのイメージを作ること心がけました。



イメージ図

● 舞台演出班

1. どのようなファッションショーの見せ方にするか話し合う

→ファッションショーの前に、広田遺跡の概要説明と製作の様子を映像で流し、補足説明をする。

2. 衣装制作班、アクセサリー制作班を取材し、製作過程を映像に収める。また、高校の文化祭での中間発表で、広田遺跡シンポジウムでの発表CMを製作し、広田遺跡シンポジウムへの来場を呼び掛けた。

3. ファッションショーの具体的な構成を練る
→当日の役割分担を決め、進行のシナリオを作成。舞台が張り出しのない舞台であったため、当日は機材を借りて花道を作ることになった。

※ ファッションショーの表現方法は、中種町在住のモデル経験者、鈴木安代先生に指導いただきました。

※ ショーの際の音響・照明は町内在住の尾関昌平先生に指導いただき演出を考え、南種子町連合青年団の方々に操作の指導をいただきました。

〈活動の感想〉

・当時の広田人が作成した貝符の文様は、現代でも通用するようなすぐれたデザインであることに驚きました。もし広田人が現代によみがえったらどんなデザインにするだろう、貝をどんな風に利用するだろうと思いを巡めぐらせながら作りました。

ファッションショー プロローグより抜粋

私たちは、広田遺跡の学習を通して、広田人の高い技術と勤勉な気質、センスの高さを想像しました。そこで、広田人の知的文化に畏敬の念を抱きながら、ファッションショーを催すことにします。

ファッションショー エピローグより抜粋

私たちはこの広田遺跡を知ることによって、何より「自分たち自身」を知ることになりました。自分たちがここに生まれ、ここに育ち、そしてここで生きていくことを考えたとき、やはり私たちはここ南種子を大切に考えていきたい・・・そして考えていかなければならないと思っています。

■ 制作した貝のアクセサリーの解説



No. 1 シェルネックレス

中央の穴のあいた貝が目立つように他の貝を配置して工夫しました。



No. 2 リュウハイス

広田遺跡特有の電筒形貝製垂飾のプレスレットで、電筒を配置するバランスに気がつけました。



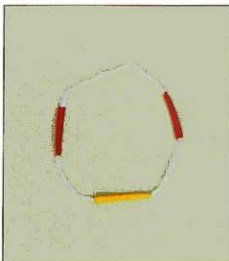
No. 3 広田ストラップ

貝とビーズを使ったストラップです。シンプルなものになるように気がつけて作りしました。



No. 4 リューハイのプレス

広田道跡で使われていたツノガイのプレスレットです。ツノガイに色をつけてカラフルなものにしました。



No. 5 ミサンガ

足首につける飾りです。広田道跡で使われたツノガイを使って、シンプルに作り上げました。



No. 6 ロケット首飾

イモガイで南種子町のシンボル、ロケットをイメージしました。青いビーズでアクセントをつけました



No. 7 ニシキツノガイ首飾り

広田道跡で使われた太ツノガイ（ニシキツノガイ）を用いて、当時のネックレスをイメージしました。



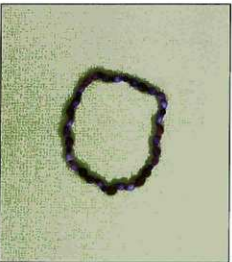
No. 8 ホワイトネックレス

広田の砂浜をイメージして、白を基調とした貝で作りました。



No. 9 old and new

現代的なシルバーアクセサリーと貝を融合させました。いろんな色を使い工夫しました。



No. 10 木数珠（もくじゅず）

あえて貝を使わず、数珠玉を使ってプレスレットを作りました。青いビーズでアクセントをつけています。



No. 11 広田のつけづめ

上層貝符の文様をつけづめのモチーフにしました。また、貝を使って広田道跡のイメージを作りました



No. 12 腰巻き

広田道跡で使われた貝符や竜頭形貝製首飾を取り入れて、昔も使われていたようなイメージにしました。



No.13 ネックレス

貝をたくさん使い広田道跡をイメージしました。シルバーアクセサリーを使ってアクセントにしました。



No.14 貝の首飾り

たくさんの貝の種類を使い、かつシンプルなものになるよう工夫しました。



No.15 ブラジル風ネックレス

ブラジルのサンバをイメージした貝のネックレスです。広田道跡と奇跡のコラボレーションです。



No.16 カイフの首飾

貝符を使った頭飾りです。白い貝を使って広田道跡のイメージにしました。



No.17 リュウハイネックレス

配色を考え、カラフルなネックレスになるよう工夫しました。



No.18 シェルネック

貝とビーズの配色・配置に気をつけて作りました。



No.19 貝の指輪

ピンク色の貝の破片だけを使ってシンプルに仕上げました。



No.20 エコバック

貝符のマークに合わせてツノガイの色を変えました。周りに電線マークを入れて現代風に仕上げました。



No.21 広田人エコバック

人骨をモチーフにして、広田道跡らしさを出しました。人骨が強くなりすぎないように配置しました。

■ 制作した衣装の解説



No. 8 貝がらのワンピース

広田人の貝へのこだわりを表現するために、直接貝をあしらいました。そのため、「モダンな雰囲気をもたせつつデザイン」を考えることに苦心しました。



No. 2 カイフパンツ

広田の「砂浜」と「遺跡」からイメージされる『茶色』を基調色にしました。貝殻をモチーフにしています。シンプルかつ大胆なデザインで着者らしさを出しました。



No. 3 リュウハイワンピース

電燈形貝製装飾をモチーフにしたワンピースです。柄の部分は白のビニール素材でできていて、落ち着いた茶色の生地につけることで存在感UP!!





No.6 ツノガイのフリルスカート

広田道跡で見つけた独特な形をしているツノガイを使って花をかたどったところがポイントです。

貝を1つ1つ付ける作業は大変で、とても苦労しました。



No.7 広田道跡風パレオ

広田道跡の貝符の文様をオレンジのパレオに貼り付けました。文様を1つ1つ作るのとても大変でした。

これ1枚でさまざまな巻き方ができるため、いろいろとアレンジできます。

(サーファー巻き・ボンチョ巻き・スカート巻きなど)



No.4, 5 広田道跡Tシャツと広田道跡風パンツ

人骨Tシャツは、「道跡」のインパクトを伝えるデザインにし、裾に受け入れられやすい黒地にしました。

パンツは、生成りの綿糸材で民族衣装風のアレンジしました。また、裾に貝符のマークを大きく取り入れることで広田道跡の雰囲気をもし出すとともに存在感のあるものに仕上げました。



No. 9 貝符のスカート

生織りの落ち着いた感じの民俗衣装風スカートです。ツノガイを使用して貝符をかたどった布を前後に垂らしてあります。貝を1つ1つ縫い付ける作業はなかなか根気のある作業でした。

貝の垂れた部分をはずすと、ショートパンツとしても使えるデザインにしています。



No. 10 電線Tシャツ

後ろのハート型は電線形貝型番神をモチーフにしています。いろんな色に合わせやすいように黒地の生地にししました。



No. 1 貝符Tシャツ

袖の部分に貝符マークを入れました。白い貝符のイメージとは異なる、カラフルな色使いでPOPなTシャツに仕上がりました！！



4. 南種子町連合青年団

(広田道跡記念シンポジウム 扇子より技粋)

みなさん、こんにちは。私たちは南種子町連合青年団です。

青年団とは、大雑把に言えば、「わっかしい〜」の集まりです。今年で発足63年目を迎え、現在37名の団員で活動をしています。

偉大な先輩方に叱咤・激励されながら、日々「今、自分たちが本当にしたいことは何なのか？何をすべきなのか？」を団員1人ひとりが考えながら地域に根ざした活動の展開を目指しています。

活動としては、ボランティア、各種行事のスタッフ等で、自主活動の主たるものとしては交流活動を展開しています。様々な方々と触れ合うことで、視野を広げ、考え方を学び、自己形成・向上の糧としています。

今回、広田道跡が国の史跡指定を受けましたが、広田道跡を発見するきっかけとなった人骨を最初に発見したのは、当時の青年団員であったとお聞きしています。また、昭和32年から34年にかけて行われた発掘調査に当時の青年団の方々もボランティアとして参加したそうです。

そういう意味でも私たち青年団は歴史と伝統のある団体です。私たちはその功績をたたえるとともに、先輩方に負けぬよう精進し、後世に引き継いでいきたいと思います。

今回はシンポジウム開催にあたって、青少年のリーダーとして小中高生の発表の音響、照明などの舞台演出を担当します。

広田道跡の国史跡指定、誠にありがとうございます。



青年祭での地元の郷土芸能披露



商工会のみなさんとのボランティア活動



地元の高校生との交流スポーツ大会

南種子町連合青年団 10名 (総員数34名)

毎年、南種子町連合青年団は青年祭という独自の舞台発表イベントを行っており、音響・照明を扱える若者が多数いるため、今回広田道跡シンポジウムでの音響・照明の担当として参加していただくことになりました。機材のセッティングなどの舞台設営ややりハーサルでの演出の打ち合わせ

などにも参加いただき、広田道跡シンポジウム当日も音響・照明のほか、舞台のセッティングや受付など幅広く活動いただきました。

また、南種子高校のファッションショーの際は、高校生の照明・音響の操作指導をしていただきました。

5. その他の協力者

今年度の埋蔵文化財普及啓発事業では、多くの地元の方に様々な分野で協力をいただきました。

発表の指導をいただいた若澤裕子さんには、当日の司会進行もしていただきました。声だけのアナウンスではなく舞台袖での時折アドリブを加えながらの司会は、来場者から「内容にメリハリがでてとてもよかった」と大変好評でした。

また、中・高校生によるボランティアスタッフにもシンポジウム当日の受付や会場運営に参加いただきました。

今回の活動に参加された方には、南種子町が行っている1ターン制度で種子島に移住された方もおり、そうした方からは、「こうした地元の活動に参加することで、地元の人が声をかけてくれるようになった」という声も聞いています。また、児童・生徒は指導という形で地元の方々を通して、さまざまな職業に触れる機会を得ることができました。

事業に理解をいただき、協力いただくことで人と人とのつながり、さらには地域の活性化につながる一つのきっかけになったのではないのでしょうか。

また、広田遺跡シンポジウムの広報・周知についても多くの方に多大なご協力をいただきました。地元の新聞社には数回にわたり記事に取り上げていただき、今回のシンポジウムの周知を幅広く行うことができました。シンポジウム当日には多くのメディアの方々に、地元ニュースとして取り上げていただきました。メディアの取材を受けることは、活動団体にとっても大きな励みとなりました。こうした広報活動は大きな相乗効果を生むため、積極的な働きかけが重要となります。

また、家庭教育学級などの社会教育関係団体には、今回のシンポジウムをの活動内容の中に組み込んでいただきました。また、町内の商店街や島内の空港、港への広報ポスターの掲示も快く承諾いただきました。

さらに、今回発表を担当した平山小学校、南種子中学校、南種子高校の児童・生徒に協力いただき、それぞれの学習内容をPRする内容を収録し、車で広報しました。

こうした地元の人々やメディアの協力により周知活動を徹底したことで、広田遺跡シンポジウムは立ち見が出るほどの大盛況を収めることができました。



貝に文様付け挑戦

南種子中学校の児童・生徒が、広田遺跡シンポジウムに備えて、貝に文様を付ける挑戦を行いました。児童・生徒は、貝殻の表面に、色とりどりの絵や文字を描き、個性豊かな作品を発表しました。この活動を通じて、児童・生徒は、伝統文化の大切さや、地域への愛着を深めることができました。

新聞記事(南種子中学校)



9月シンポでお披露目

新聞記事(南種子高校)



新聞記事(シンポジウム)

「広田遺跡」学ぼう

広田遺跡 もっと知って

国史跡指定でシンポ

小中高生らが「衣装」など披露

6. パネルディスカッション

シンポジウム第三部では、「広田遺跡の謎に迫る」をキーワードにパネルディスカッションを行いました。各先生方に広田遺跡の謎に関する説明や広田遺跡の特徴などについて討論いただきました。

また、来場者も参加できるように、当日配布したパンフレットに質問用紙を添付し、休憩時間等を利用して回収し質問を受け付けました。また、会場から直接質問する時間も設けました。

第三部 パネルディスカッション

司 会

堂込 秀人 (鹿児島県文化財課歴文化財係長)

パネリスト

木下 尚子 (熊本大学教授 考古学)

高瀬 要一 (奈良文化財研究所客員研究員 史跡整備)

宇多 高明 (財) 土木研究センター 海岸工学)

竹中 正巳 (鹿児島女子短期大学准教授 形質人類学)

中村 直子 (鹿児島大学准教授 考古学)

福富田 佳男 (文化庁文化財調査室 考古学)

徳田 有希乃 (南種子町教育委員会)

石堂 和博 (南種子町教育委員会)

〈パネルディスカッション要旨〉

(1) 「広田遺跡の謎に迫る」

- ・広田遺跡の墓制の特性について (福富田)
- ・鹿児島本土の墓制と広田遺跡の墓制との共通点について (中村)
- ・広田人骨の特徴について (竹中)
- ※ 広田遺跡の貝製品の特性については木下先生に基調講演で解説していただいた。

(一般質問)

- 広田遺跡の貝製品にはどのような意味合いがあったのか
- 山の字貝符などから、外部 (古代中国) との交流はあったといえるのか
- どのようにして貝に穴をあけたのだろうか
- 土器の形は底が細くなって不安定に見えるが、どうしてこのような土器を使っていたのだろうか
- 広田人は種子島の人か。島外からきて広田に墓を作った可能性はあるのか

- 広田人は実際に貝を身につけていたのか (南種子高校発表者より)
- 人骨のDNA鑑定はされているのか、されているならその結果はどのようなのか
- 当時の広田遺跡の人口はどのくらいなのか
- 南種子町には広田遺跡以外にどのくらい遺跡があるのか

(2) 今後の課題について

- ・日本列島における文化の多様性を表す遺跡である (福富田)
- ・海に近い場所にある『ご先祖様の明るい墓地』をイメージした整備が望ましいと思う (高瀬)
- ・遺跡を守るための対応の際は、その構造物の与える影響はないかなど、十分検討する必要がある (宇多)
- ・広田遺跡の解明のため、その前後の時代の埋葬遺構の調査が必要である (竹中)
- ・遺跡の解明には、集落の調査と現在ある資料のさらなる調査が必要である。集落調査は、どこにあるのか地道に探していかなければならない (中村)
- ・広田遺跡については解明されていない点も多く、調査は始まったばかりだということ認識して欲しい。同時期の居住域が発見されれば、追加指定の可能性もある (福富田)
- ・遺跡の保存活用には地域の方々の理解と協力が必要である。今回のシンポジウムでは広田遺跡に対する思いや地域に残る跡などを見せていただいた。遺跡はその地域の財産であり、地元の人がどのようにそこに思いを寄せるかが一番大切である (高瀬)
- ・高校生のファッションショーはとても新鮮だった。今後の遺跡の活用にはこうした若い人達の力が必要である (木下)
- ・遺跡の整備活用は地域のみなさんが主役であり、積極的に進めてほしい (堂込)
- ・広田遺跡は昔から地元の方々に守り親しまれてきた遺跡であるため、地元の方々と一緒に遺跡の未来を考えていきたい (町教委)

第3節 文化財ポスター

テーマ：『広田遺跡』

募集対象：南種子町内の小学校高学年～高校生

図画の制作を通して本町の文化財への理解を深め、愛護の精神を養うことを目的として、町内児童生徒を対象に、町広報や学校を通して公募しました。

シンポジウムに合わせて「広田遺跡」をテーマとし、応募作品はすべて広田遺跡シンポジウムの会場で展示しました。

最優秀作品は文化財保護強調週間のポスターとして町内教育機関に配布・掲示しました。

応募総数 24点

最優秀賞

島間小学校5年 野首 希菜々さん
「私たちの広田遺跡」

優秀賞

中平小学校6年 島崎 星南さん
「宇宙とつながる広田人」

南種子中学校2年 園田 みかんさん
「眠る広田の宝」

南種子中学校3年 平原 香菜さん
「目覚め」

最優秀賞には、広田遺跡で貝製品として使われた貝の標本セットを、その他応募者全員に電鍍形貝製垂飾をあしらったネックレスを贈呈しました。

また、応募期間が夏休み期間であったため、郷土館・図書館などで広田遺跡に関する資料の充実を図り、来館した児童・生徒の学習に対応できるようにしました。

文化財保護 強調週間

11月1日～7日



文化財を大切にしましょう。

南種子町教育委員会

文化財保護強調週間ポスター



電鍍型貝製垂飾
文化財ポスター応募の参加賞



最優秀・優秀作品

第4節 事業の成果

シンポジウムでは、総数393人と、臨時で席を増設しても足りず、立見が出るほど多くの方に来場いただきました。また、終了後には多くの方々からシンポジウムの感想や広田遺跡への興味・関心の言葉をいただきました。

多くの来場者を得た背景には、「町民みんなで作るシンポジウム」であるという意識が大きく働いたと考えられます。シンポジウムに来場した高校生は、ファッションショーをする生徒の応援にきた、とシンポジウムに聞き入っていました。シンポジウムで児童・生徒という身近な存在が遺跡に関する学習を発表したことで、地域の住民の興味・関心がより高まったと考えられます。

参加した発表者の中には、以前、広田遺跡について企画展や学校で学習したことがある児童・生徒もいましたが、自分でテーマを決めて学習を行ったことで、遺跡に対する思いがさらに強まったという感想を聞いています。

こうした埋蔵文化財の普及啓発活動を実施することは、新たな謎や課題をみつけ、取り組む意欲の向上、さらには遺跡への興味関心の向上に効果があったということが分かりました。

パネルディスカッションでも指摘がありました。広田遺跡の保存活用は始まったばかりです。南種子町では、護岸を設置することで緊急的な遺跡保護への対応がなされましたが、今後は遺跡の整備・活用、出土品の展示・活用などを進めて行く必要があります。

こうした遺跡の保存活用は、地域住民である私たちが進めていかなければなりません。遺跡の保存活用への体制作りを整えていくことが今後の課題だといえるでしょう。

最後に、事業を行うにあたって、全般にわたり「人間のネットワーク」が大切であるということを実感しました。

事業の周知や協力依頼などの際は同課の社会教育係（公民館、生涯学習団体等に関する事務を担当）が業務を行いました。また、各学校にシンポジウム出演の公募をした際の、各学校との調整に、

同じ町教委の管理課（学校関係の事務を担当）に多大な協力をいただきました。こうした内部の協力体制は、事業をスムーズに進めるためには欠かせないものといえます。

また、各学校においても、学習を計画・指導する先生方はもとより、シンポジウムが休日開催であったため、児童・生徒の出演はPTAの方々の理解と協力が必要不可欠でした。学習の中でも、ちくてんの指導には広田集落の方々、インタビューの際は、広田集落の漁協関係の方々にも協力いただき、高校のファッションショー、中学校の研究発表では、地元の有識者の協力・指導により、さらに質の高いものにすることができました。

パネルディスカッションにおいても、先生方に多大な理解と協力をいただきました。今回のシンポジウムでは多くの内容を盛り込んだため、パネルディスカッションの時間が制限されてしまいました。限られた時間で多くの検討内容をこなすため、先生方や文化庁、司会の県文化財課堂込氏と再三、入念な内容の打ち合わせを行いました。こうした先生方の理解と協力のおかげで、広田遺跡の今後についての課題など、充実した内容のパネルディスカッションを行うことができました。

南種子町は年中行事や地域行事も多く、「ネットワーク」が強い地域であるため、どの内容でどの人に協力依頼をすればよいか、といった情報も入手しやすく、また協力も得られやすい状況であったことが、今回の「参加型シンポジウム」へとつながったと考えられます。

こうした「地域住民のネットワーク」を生かして、これからの南種子町の埋蔵文化財の保存活用を進めていきたいと考えています。

平山小学校 1



ちくてんの合同練習



広田集澤の方に指導していただきました



アクセサリグループ イモガイに彫刻中



ファッショングループ アンギンでコースターづくり 「また取れた..」



食べ物グループ 広田人の食べ物調べ



土器グループ 土器に金雲母を混ぜてみる



土器グループ いろんなものを混ぜて実験中



学習発表会(食べ物グループ)



学習発表会(ファッショングループ)

南種子中学校



広田道跡について郷土館で学習 「頭部が変形してるの!」



文化庁の原田先生に縄文時代の穴の開け方を教えていただきました



インターネットを活用して調べ学習



実際にイモガイに彫刻してみる



本物の広田道跡の貝製品と見比べてみる



郷土館で広田道跡出土品を見学



舞台演出班 プロモーションビデオのための撮影



アクセサリー制作班 アクセサリー作り奮闘中



アクセサリー制作班 貝にひもを通す



衣装制作班 衣装のデザインを検討中



舞台演出班 文化祭のCMづくり



渡邊先生に指導いただきながらエコバック制作中



衣装制作班 衣装のための布の裁断



花道づくり



ファッションショーのリハーサル

広田遺跡シンポジウム 1



平山小学校 「ちくてん」



名司会をしてくださった岩澤さん



南種子中学校 「広田遺跡の紹介」



平山小学校 「広田遺跡についての中間発表」



文化財ポスターの展示

広田遺跡シンポジウム 2



青年団や中高生ボランティアスタッフに協力いただきました



木下尚子先生の基調講演



広田遺跡の整備について町教委が報告



南種子高等学校「広田人のファッションショー」



南種子高等学校「広田人ファッションショー生徒総出であいさつ」



パネルディスカッション

平成 20 年度 埋蔵文化財保存活用整備事業に伴う南種子町の取り組み
～広田遺跡の新たな風～

発行日 2009 年 3 月
発行者 南種子町教育委員会
〒 891-3792 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
TEL 0997-26-1111
URL <http://www14.synapse.ne.jp/minamita/hirotaiseki>
印刷所 樹秀巧社印刷